

会議記録

令和5年11月8日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第14回 吉見・鴨庄・三輪地域部会
- 日時 令和5年11月7日（火）19:30～21:30
- 場所 ライフピアいちじま 研修室
- 出席者 委員：坂谷 高義、木寺 章、淵上 利美、由良 英樹、高見 忠寿、
松本 和樹、吉井 公乃、内田 順子、芦田 繁昭、田野 悟
（欠席委員：宇佐美 大介、高橋 麻美、岸本 菜実）
教育総務課：足立課長、船越係長、河南
学校教育課：小森副課長
子育て支援課：西山課長、芦田係長
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

1 報告・協議事項

（1）校名募集の応募状況について

事務局より10月27日現在の応募状況（応募用紙90件、オンライン9件）を報告した。

<協議意見>

委員：小学生の応募も入っている。90件のうち50～60件は子どもの応募だと思う。大人の参画という面で、各地域の集会などで再度呼びかけをお願いしたいと思う。

委員：募集締め切りが近づいているので、盛り上がっていただけるように皆さまの呼びかけを再度お願いしたい。

（2）校歌歌詞、校章デザインについて

前回会議の意見（旧鴨庄小学校の内容を追記）を踏まえて修正した校歌歌詞及び校章デザインの募集要項（案）を事務局から提案し、提案のとおり決定された。募集期間については、校名の決定を年内に予定していることを踏まえ、1月～3月末までを募集期間とすることに決定された。

<協議意見>

委員：募集期間について事務局が想定しているスケジュールはあるか？

→事務局：竹田・前山統合小学校のスケジュールを参考にすると、昨年11月28日に校名の選考会を実施したのち、校歌歌詞及び校章デザインの公募を1月10日～3月17日の2ヶ月程度実施した。歌詞は約120件、校章デザインは約300件の応募があった。今回についても、年内に校名の選考を予定していることから、1月～3月の概ね2ヶ月の期間でどうかと考えている。

委員：校名の募集期限は11月16日（木）までであるが、予想よりはるかに少ないと思う。竹田・前山統合小学校の時は2地域だったが、今回は3地域ということで、校名を考えるのが難しいという面もあるかもしれないが、この状況をみると、校歌歌詞、校章デザインはもっと難しくなると思う。短期間に決めるのか、

時間があるのでもう少し時間をかけるのか皆さんの意見を聴きたい。

委員：新しい校名が決まって、1～2ヶ月で校歌歌詞、校章デザインの作成は難しい。
校名が決まってからもう少し時間があつた方がよいと思う。

委員：校名については12月に決まるという予定でよろしいか。

→事務局：校名については12月に決定したいと考えている。

委員：事務局に質問で、募集時期が3月～5月にまたいでも問題ないのか。

→事務局：問題ないが、校歌歌詞が決まったあとに作曲の制作となり、子どもたちの練習の期間を確保したいという意見もあつたので、年度内の公募を提案させていただいた。

委員：開校の半年くらい前には作曲ができているといろんな準備ができると思う。

→事務局：これから作曲の候補者を協議いただくことになるが、依頼する方によってどのくらい作曲に期間を要するかわからないので、期間があるようでない場合がある。竹田・前山統合小学校のときは、2ヶ月程度の募集ではあつたが、各施設や近隣の学校に周知、専門雑誌等に掲載することで、多くの応募があつた。3月17日まで募集したが、選考に向けて事務局でとりまとめる期間も必要で、竹田・前山の場合は6月頃に選考会を実施している。その後作曲の制作となる。

委員：作曲のことを考えると、早めに決まったほうがよいと思う。

(3) 校歌作曲について

校歌作曲については、Aさんに事務局から打診することが決まった。

<協議意見>

委員：依頼する場合の予算は10万円となるのか。

→事務局：10万円となる。

委員：竹田・前山統合小学校や青垣小学校のときにも10万円でスムーズに快諾いただけたのか。

→事務局：理解いただきお受けいただいた。

委員：他の候補者の名前が挙がらないので、現在挙がっている候補者のうちどなたに依頼したらよいのか協議したい。

委員：認定こども園「いちじまこども園」はどなたが作曲されたのか。

→委員：現在の園歌は職員が作曲した。

委員：Aさんは、仕事で多くの作曲経験があり、市島町にも縁のある方である。期限内にしっかり作曲いただけると思う。

委員：Aさんをお願いしたい。

(4) アフタースクールの方針について

子育て支援課から、アフタースクールの方針(案)として、吉見小学校・三輪小学校統合後は吉見アフタースクールで実施することを説明した。今後、三輪小学校区の保護者へ説明する機会が設けられる予定である。詳細は学校等と調整を行う。

<説明概要>

- ・アフタースクールは校区内に1箇所設置する。
- ・統合後のアフタースクールの実施場所は吉見アフタースクールを考えており、令和5年度中に決定していきたい。
- ・令和7年度に施設の改修を予定している。
- ・統合初年度は加配指導員を配置する。

<協議意見>

委員：1クラスの人数（37人、37人、36人）は定員を3で割った人数か。

→子育て支援課：単純に110人を3で割った人数である。40名定員を考えたときに割った人数である。

委員：アフタースクールの実施場所として、子どもたちどうしの関係性と小学校・アフタースクールの連携、情報共有が大事になってくるので、そのあたりを十分お願いしたい。

委員：アフタースクールの運営委託を受けている。この会議でアフタースクールの場所は決定するが、施設は法人所有なので、法人と調整した後に最終的な決定という理解でよろしいか。

→子育て支援課：統合準備委員会でアフタースクールの実施場所の方向性を承認いただいて、詳細は法人と協議していきたい。

委員：3クラスで均等割りしたら資料の人数となるが、運営はかなり難しい。学年の人数に応じて、高学年はまとめて1部屋使うなどの運営方法になると思う。特に夏休み期間中は、かなり利用人数が増えており、今年も大変な状況があったので、三輪小学校との統合後においても課題は増えてくると思う。円滑な運営ができるように施設の改修についても十分話し合いをお願いしたい。

→子育て支援課：方針は統合準備委委員会で決定いただきたい。そのうえで、法人と詳細に調整し、合意を受けて最終的に決定していきたい。

委員：吉見・鴨庄小学校の統合の際にアフタースクールのことは周知されていると思う。鴨庄のときは、事前に保護者に説明の機会があった。今回は、そういう機会は必要ないのか。

委員：丁寧な説明と納得いただくことが必要だと思うので、ぜひやってほしいと思う。

指導員の配置基準について、丹波市の方針とこども園の方針が違うように思う。

→子育て支援課：配置基準は同じである。国は40名までは2人体制という厳しい基準であるが、丹波市は独自の基準をもっており、30名を超えると1人配置している。配慮が必要な児童などに向けた指導員の配置加算も行っている。鴨庄のときにはPTAの集会で説明させていただいた。学校と調整しながら丁寧に説明していきたい。

委員：鴨庄のときは、アフタースクールが吉見小に決まる前に説明されたのか。

→委員：決まる前に説明された。

委員：鴨庄のときは、アフタースクールを地域内で継続してもらえないだろうかという意見のなかで丁寧な説明をされたと思う。三輪小学校区のなかで統合後のアフタースクールをどう考えているのか聞いてもらえたらよいと思う。

委員：今年の2月か3月に、統合後のアフタースクールは1つであるということを現在のPTAには説明しているが、全PTA会員には周知できていない。

→子育て支援課：令和8年度統合となるので、現在の保護者はアフタースクールの対象とまらないかもしれない。丁寧に説明したいと考えているが、統合まで期間があるので、説明のタイミングについては都度学校と調整していきたいと考えている。今年度は方針について説明したい。

→委員：丁寧な説明をしていただいて決定という流れでお願いしたい。

→子育て支援課：令和6年度開校の竹田・前山統合小学校の例でいうと、アフタースクールの入所者が決まった段階で、竹山愛育会が入所説明会をされる予定で、子育て支援課も出席させていただく予定である。令和8年度吉見・三輪統合小学校においても同様に、改めて説明する機会を持てればと考えて

いる。

委員：長期の休みのときに急激にアフタースクールの利用者は増えると思うが、そのあたりは考慮されているのか。

→子育て支援課：見込んだ人数の改修を予定しており、対応可能と考えている。

(5) 三輪小学校区児童の通学支援について

教育総務課から路線バスを活用した通学支援の概要を説明し、ふるさと定住促進課からバス運行ルートやバス乗車想定人数等について詳細に説明した。他市（丹波篠山市立城南小学校）の事例として、路線バスを活用した児童の通学の様子を映像で視聴した。今後、三輪小学校区の保護者へ説明する機会が設けられる予定である。詳細は学校等と調整を行う。

<説明概要>

- ・既存の路線バスが市島地域に延伸する予定であることから、三輪小学校区の児童を対象に路線バスを活用した通学支援を行う。
- ・7時40分～8時の間に小学校へ登校できるよう運行し、14時53分、15時43分に小学校から下校できるよう運行する。午前中授業や学校行事等については、臨時便や公用バス等で対応する。
- ・運行事業者は株式会社ウイング神姫（丹波市内バス路線運行事業者）
- ・バス運賃はICカード乗車券「NicoPa」を使用する。通学定期券購入補助により、対象児童に配布予定である。

<協議意見>

委員：社会実験の時期はいつ頃か。

→ふるさと定住促進課：社会実験は、来年4月1日～7月31日までの4ヶ月を予定している。実験の際は中型バスで、本格運用時は大型バスとなる予定。

委員：アフタースクールと同様に、保護者にも説明していく必要があると思っている。最終的な期限はいつまでか。

→事務局：アフタースクールと同様に、令和5年度中に統合準備委員会で承認いただきたいと考えている。

委員：通学想定ルートは、よくできていると思う。市島町から医療センターまでの公共交通手段がないというなかで、この路線を絶対利用したいと考えている。

委員：社会実験の時の対象者の想定はあるか。

→ふるさと定住促進課：春日地域の野瀬地区から黒井駅までつながる路線と、市島地域に新設しようとする路線の組み合わせによって有効な路線が実現するものと考えている。社会実験では、市島地域の方には、県立丹波医療センターまでの交通手段としての利用や路線バスを知っていただく機会となる。また、春日地域では中高生の通学支援として利用いただくことも想定している。これらの需要を満たす大変有効なルートであると考えている。

委員：学校としてはスクールバスがすでに運行しており、2者のバス会社との折衝が生じることになる。スクールバスではシートベルトの着用指導をしており、路線バスではシートベルト不要で、立ち席も問題ないということになる。美和地域の方と保護者が納得されて決められることだと思っているが、学校の不安や課題についても協議いただきたいと考えている。1つ目は、始業や下校時刻を変えなくてもよいようにすること、2つ目は職員の勤務時間に配慮すること、

3つ目は、統合時の1ヶ月間、通学に係る支援をしてほしい。先ほど映像で視聴した丹波篠山市立城南小学校は40年近く続いている学校で30名程度の児童の利用人数だと思うが、今回は70名近くの児童が利用する。4つ目は、忘れ物対応などは保護者で対応してもらうことになる。

委員：アフタースクールと同じ集まりのタイミングで話をしてもらうことは可能か。

→ふるさと定住促進課：一般の路線バスというものの、この時間帯に限っていえば、美和地域と学校をつなぐ路線ということで、途中で忘れ物の確認はできる。そういったことも含めて不安はあると思うので、説明の機会をいただければ、丁寧に説明していきたい。

学校教育課：児童が路線バスで学校に来られたときに職員が安心して迎え入れられるように、教職員の働き方や勤務時間、職員の配置状況等について学校と話し合っ
て考えていきたい。

委員：社会実験の結果をどのように判断するのか。子どもを含めて将来的に乗車人数が減っていった場合、バス路線はどうなるのか。

→ふるさと定住促進課：持続可能な公共交通の実現に向けて、将来にわたって維持できる公共交通体制の構築の一つとして今回の路線再編を行う。市島地域では、身体的な理由等により鉄道を利用しづらい方などのバス路線の必要性、ニーズも拾っていきたい。春日地域では中高生の通学支援で活用いただくなど利用者の掘り起こしを行う。今後、乗車人数が減少した場合、バス車両のサイズは変わることがあるかもしれないが、ニーズ、目的がある限り将来にわたって路線バスを維持していきたいと考えている。

2 次回日程

令和5年12月11日（月）ライフピアいちじま 19時30分～
校名選考会の実施（予定）